



広報

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻
 京都大学医学部人間健康科学科



第 32 回健康科学市民公開講座の様子 (p.13 参照)

目次

○学科長メッセージ	澤本 伸克… 2	リハビリテーション科学コース	教授 林 悠…10
○ COVID-19 感染拡大防止対策として実施中の オンライン授業の影響 ～その点検・評価はこれから始まる～	黒木 裕士… 3	看護科学コース	准教授 塩見 美抄…11
○退任挨拶		看護科学コース	講師 細川 陸也…11
元リハビリテーション科学コース 特定助教	趙 朔… 5	看護科学コース	助教 平 和也…12
元看護科学コース 准教授	新福 洋子… 5	看護科学コース	助教 近田 藍…12
元看護科学コース 教授	桂 敏樹… 6	○第 32 回健康科学市民公開講座報告……………	13
元リハビリテーション科学コース 教授	三谷 章… 6	○ 2019 年度オープンキャンパス ……………	15
元リハビリテーション科学コース 助教	小川 真寛… 7	○新規博士 ……………	16
元看護科学コース 特定助教	寺山 慧… 7	リハビリテーション科学コース (理学)	越智 亮…17
○新任挨拶		リハビリテーション科学コース (理学)	梅原 潤…17
検査技術科学コース 特定講師	河本 大知… 8	検査技術科学コース	佐々木 誠…18
リハビリテーション科学コース 助教	谷間 桃子… 8	リハビリテーション科学コース (理学)	ZEIDAN HALA…18
検査技術科学コース 助教	榛葉 旭恒… 9	○入学試験結果、修了・卒業者数 ……………	19
検査技術科学コース 助教	西中 瑤子… 9	○卒業生の進路調査結果 ……………	21
検査技術科学コース 助教	金橋 徹…10	○人事異動 ……………	22
		○日誌 ……………	23
		○あとがき ……………	24

学科長メッセージ

澤本 伸克

令和2年度の広報誌をお届けさせていただきます。COVID-19によって、診療、教育あるいは研究に大変なご苦勞をされている皆様方が多くいらっしゃると思います。京都大学でも、3月の全学での学位授与式、4月の入学式がいずれも残念ながら中止となりました。また、前期の講義のオンライン化、教職員のテレワーク化など、感染拡大を防止する対策を進めて参りました。

この難局の中、前号の広報誌でお伝えいたしましたとおり、医学研究科人間健康科学系専攻では、組織改革を進行させています。今年度は、教育・研究をより一層充実させるために、修士課程と博士後期課程の入学定員を増員する申請を文部科学省に行っています。増員による大学院教育の重点化は、急速でダイナミックに変貌し続ける医療を実践し、発展させる医療人・医学研究者を育てるために必要であると私たちは考えています。申請が認められれば、令和3年2月17日と19日に増員分の入試を実施する予定です。今年度に限り、修士課程及び博士後期課程をご希望いただいている学生の皆様には、それぞれ2回の受験の機会をご準備する予定です。大学院教育の重点化によって、本学の卒業生が、これまで以上に社会に大きく貢献していくことを期待しています。

COVID-19 感染拡大防止対策として実施中のオンライン授業の影響 ～その点検・評価はこれから始まる～

教務・教育委員会委員長 黒木 裕士

COVID-19 感染症、いわゆる新型コロナウイルス感染症の世界的で急速な拡大の危機は、大学における授業の形態を大きく変革させました。世界各国の大学が模索したように、京都大学でも全学的にオンライン授業を行うという、大学の歴史にとっては初めての経験をしています。そこで、2020年4～6月に実施中のオンライン授業の影響について考えてみたいと思います。

京都大学では、教育に関する基本理念として「対話を根幹とした自学自習」を掲げ、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に示しています。そこには、学生が教員から高度の知識や技術を習得しつつ、同時に周囲の多くの人々とともに研鑽を積みながら、主体的に学問を深めることができるように教え育てることが大学の目指す教育であると記されています。この理念に照らし、オンライン授業は、「対話を根幹とした自学自習」や「周囲の多くの人々とともに研鑽を積みながら、主体的に学問を深めること」を達成できているでしょうか。

結論を先に述べますと、この授業の効果や問題点、解決すべき課題等についての点検・評価はこれから始まると考えます。PDCA（P; Plan 計画、D; Do 実行、C; Check 評価、A; Action 改善）のサイクルで言いますと、PとDは全学的な方向性が示されたことから、医学部人間健康科学科・医学研究科人間健康科学系専攻でもそれを実施しましたが、まだ調査が行われていないのでCの評価ができていません。これまで教員が取組んだ経験のないオンライン授業の準備に日々追われていて、前期授業期間中はまだ調査もできない、したがって点検・評価してAの改善するまでには至らない、その余裕がない、というのが本音です。

学部教育では、国家試験受験のために不可欠な実技・実習、とくに臨床実習の質や到達水準をオンライン授業では保証できそうにないという課題があることは明らかです。また大学院教育では、学生定員を大幅に増員して臨床家リーダー育成や世界水準の研究者育成を目指して概算要求している中、教育の質を担保しながら、この育成目標とする人材を輩出するという課題があります。学部でも大学院でも、このオンラインという新しい授業形態とどのように向き合うのか、これから検討しなければなりません。

学生から、あるいは教員から教務・教育委員会に届いているオンライン授業の問題点をいくつか申し上げますと、学生の通信インフラ状況は大きく異なる、学生間の対話が少なくなる、パソコン等の情報端末の向こう側にいる学生が授業中に何をしているか見えない、授業が撮影されて流出する危険がある、通信教育制度とどう違うのか判りにくい、大学の図書館が閉館となっている上に教員からの資料提供が少なく教育リソース面で不十分である、大学院の研究活動が数ヵ月停滞している、等々です。

一方、効果としては、学部教育の座学科目では予習・復習・当日授業の時間を合計して1単位45時間を想定する、いわゆる「単位の実質化」を推進するために、京都大学では履修登録できる学部授業を前期、後期に各30単位とするキャップ制を設けた訳ですが、5月に開催された京都大学・教育制度委員会では、

今回のオンライン授業では、レポート課題を与え、提出されたレポートを採点して成績評価とする科目が多いことから、学生にとってはレポートを作成するための一定の時間が必要となり、その結果、この「単位の実質化」が推進されている、との発言がありました。たしかに学部新入生では、高等学校での授業以上に勉強しなくてはいけないと感じ、今後もその習慣が確立されることが期待できそうです。ただ2年次以上に在籍し、昨年度までは授業当日だけ勉強していた学生にとっては、予習や復習、レポート作成に費やす時間をストレスと感じてしまっているかも知れません。今回のオンライン授業を契機として、「自学自習」の習慣が一層強化されることを望みます。

多くの科目では授業を録画して学習支援システム（愛称はPandA）のメディアギャラリーにアップロードしていることから、オンデマンド型で授業を再視聴できる効果もあるようです。新型コロナウイルス感染拡大防止のために行われたイレギュラーな対応としてのオンライン授業が、今後レギュラーな授業形態として定着するのか、しないのか、とても関心があります。

こうした中、2020年9月11日に開催予定の全学教育シンポジウムのテーマを「京都大学におけるニューノーマルを展望する」とすることが検討されています。「オンライン教育の取組と経験を振り返る」、「大学と社会のこれから（with コロナ & after コロナ）」および「京都大学の教育のニューノーマルとは」という3つのサブテーマでディスカッションすることも検討されています。オンラインという新しい授業形態が及ぼす将来的な教育システムへの影響等々が議論される見込みです。

いずれにしても、オンライン授業の点検・評価はこれから始まると考えます。



退職のご挨拶

元リハビリテーション科学コース（作業療法講座）

特定助教 趙 朔

令和元年 11 月 30 日をもちまして、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻を退職いたしました。紙面をお借りしましたご挨拶を申し上げます。

私は、平成 31 年 4 月より特定助教として着任し、博士後期課程・ポスドクを含めると、人間健康科学系専攻に 10 年間在籍させていただきました。教育と研究ともに、京都大学で色々携わらせていただき、十一元三先生からはじめ多くの先生方にご指導を受け、様々な経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。現在は中国深圳大学教育学部心理学院にて、この 10 年間身につけたことを教育と研究の両側面から中国の学生たちにも伝えていきます。今後も、何か困難な事と会うと予見されますが、初心を忘れず、努力して乗り切っていけばと思っております。

長い間、ご指導、ご支援くださいました人間健康科学系専攻の先生たちおよび職員の方々に心よりお礼申し上げます。人間健康科学系専攻のさらなる発展にも祈念しております。

退職のご挨拶

元看護科学コース 准教授 新福 洋子

新型コロナ感染症の影響の最中に移動となり、みなさまにきちんとご挨拶をすることが叶いませんでしたが、ここにご挨拶の機会をいただきましたこと、ありがたく存じます。2 年弱という短い間ではございましたが、大変お世話になりました。在籍の間、授業や実習、委員会におきまして先生方の実践される先進性と伝統を学ばせていただき、様々なご支援、ご助言も賜ることができました。どうもありがとうございました。学際的な研究活動の機会も得られ、研究の幅も広がられましたこと、京都大学にいられたからこそ感じております。この度広島大学大学院医系科学研究科に、国際保健看護学講座を開くこととなり、後ろ髪を引かれながらも、次のステップに進む決意を致しました。進路選択に迷っていた際、背中を押していただきましたご恩も、一生忘れません。皆様の益々のご発展を心よりお祈りすると共に、また研究、学会等でご一緒できますことを楽しみにお待ちしております。



定年退職のご挨拶

元看護科学コース 教授 桂 敏樹

定年退職に際して、20年以上に亘り京都大学に奉職し、皆様から多大なご支援ご協力を賜り職責を全うできましたことを衷心より感謝申し上げます。

さて本学では未設置であった保健師課程を新たに立ち上げ、大学院においては我が国最初の予防看護学を構築しました。本学を定年退職する迄に自分自身の本懐を遂げられたことをたいへん嬉しく思っております。また、退職に際し、多くの保健師や大学院生を輩出できたこと、卒業生や修了生が様々な分野で活躍していること、自治体や職域の保健師と協働して地域住民のための仕事ができたと等、感慨深いものがあります。今は地域・職域の保健師や大学院修了生の将来に大きな期待を寄せて、もう暫く先行きを見守っていきたいと考えています。

貴専攻も新たな進路に舵を切って、更なる発展を追求されています。今後の益々のご発展を願っておりますとともに教職員の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。



退職のご挨拶

元リハビリテーション科学コース 教授 三谷 章

3月で京都大学を定年退職し、4月からびわこリハビリテーション専門職大学に勤務しています。長い間大変お世話になり、ありがとうございました。

私は2001年1月に医療技術短期大学部に生理学担当として着任しました。その後、医学部保健学科、人間健康科学科、医学研究科人間健康科学系専攻への組織変更にもない、専門職の先生方や院生と一緒に教育や研究活動をさせていただきました。私は、生理学のなかでもほぼ絶滅種に近いいわゆるイントラ屋で、神経細胞内に電極を刺入してそのシナプス電位を解析するという局所的な研究を行っていたので、入学してきた院生が物語る研究テーマに、その問題意識の高さや強い研究意欲に感心しつつ、壮大な山脈のような印象を受けたものです。その頂には将来それぞれの力で到達してもらおうとして、それぞれの研究テーマに沿った博士論文のための研究を各院生とすることにしました。総じて悪戦苦闘の連続でしたが、多数の院生が入学してきて、助教の松林先生にも助けてもらい、賑やかで楽しい研究活動をさせてもらいました。

さて、新型コロナウイルスの影響により、いとも簡単にわれわれの生活は変わってしまいました。今後も社会を変えてしまうようなさまざまな問題が起こり、それらを克服するために医療の革新的進歩が数多く望まれるようになると思います。そして、その担い手として優秀な人材が必要となり、貴学科・専攻の重要性が益々高まってくると思います。探究心あふれる若者を集めて、日本と世界の医療を牽引する多くの高度医療専門職・研究者を養成されることを祈念いたします。

鈴鹿山麓に大学はあります。色あざやかです。着任初日には4階の居室から、右には新緑の山々に桜が咲き、その峰上の青空に白月が浮かび、左には美田が広がり、湖水が蒸発して春霞たつ琵琶湖の向こうに、灰紫色にかすむ比良山系が見えておりました。私はもう暫くの間、このような場所でリハビリテーション専門職の育成と研究に携わります。引き続きご指導・ご鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



退職のご挨拶

元リハビリテーション科学コース 助教 小川 真寛

2020年3月まで約6年間、作業療法学講座で助教としてお世話になりました。また後半の3年間はダブルポイントメント教員として附属病院でも勤務させて頂きました。紙面を借りまして、お世話になった皆様に謹んで御礼申し上げます。

京都大学では教員のスタートとして様々な教育機会にも恵まれ多くの科目も担当させて頂き、また病院との兼務は通常の教員では経験できない貴重な機会で、私の人生にとって糧となる機会となりました。また複数の研究プロジェクトにも参加させていただく中で、研究の方法論だけでなく、先生方の研究への考え方を感じ、研究の多様性や面白さを改めて感じ、多くの刺激を頂きました。こういった中で、自分の研究も磨く機会も頂き、まだまだ未熟ではありますが教育者、研究者としてはようやく立ち立てできるようになった部分もあるのでないかと感じております。

4月からは神戸学院大学にて准教授として勤務しております。京都大学で得た経験を活かしてさらに教育、研究に邁進していきたいと思っております。末筆になりますが、人間健康科学系専攻および皆様のご活躍と発展を祈念しております。

退職のご挨拶

元臨床看護学講座ビッグデータ医科学分野

特定助教 寺山 慧

私は2018年4月1日に特定助教として着任し、教育・研究に携わらせて頂きました。理研革新知能統合研究センター（東京日本橋）とのクロスアポイントメントということで、移動や遠隔でのセミナー等での難しさもありましたが、多くの先生方にご指導・ご支援頂き、また優秀な学部生・院生の皆様のおかげで多くの貴重な経験を積むことができました。

2020年3月31日をもちまして、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻を退職いたしました。

現在は、横浜市立大学生命医科学研究科で教育・研究に従事しております。2年間という短い間でしたが、人間健康科学系専攻の先生方・職員の皆様には大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

着任のご挨拶

検査技術科学コース 特定講師 河本 大知

2019年7月1日より、本専攻医療検査展開学講座福岡真悟研究グループの特定講師として勤めさせて頂いております、河本大知（こうもとだいち）と申します。本学産官学連携本部の産業・国際連携開発部門とも兼務致しております。改めまして皆様、この場をお借りしまして今後ともどうぞ宜しくお願ひ申し上げる次第でございます。

私は医療従事者ではございませんので、病院に来られる患者さんを直接的にケアする機会はありませんが、人々の暮らしの現場ないし現場に近い場所で、サイエンスの視点から「人が生きること」を理解・再定義し、現在の医療・ヘルスケアの枠組みでアプローチされていない角度から、大きくは住み良い今後の超高齢化社会での暮らしをデザイン・現場に実装することを目標として、様々なプロジェクトに携わっております。医学、情報学に加え、工学、社会学、心理学、経済学等、多岐にわたる知見が必要となります。教員会議や五〇会などにて皆様とお会いしお話しさせて頂く機会がございましたら、何卒忌憚のないご意見拝聴、ご議論賜れますと幸いに存じます。

私自身は、名古屋大学にて数理学（数学）博士号を取得後、約3年間産官学連携共同研究に産業側から携わりました後に本学に移り、事務本部研究推進部学術研究支援室にて特定業務専門職員の立場から本学大学運営支援に携わりました後、情報環境機構ならびに学術情報メディアセンターにて特定講師を務め（兼務）、現在に至っております。途上でご縁を頂戴しました様々な先輩諸氏とお話しさせて頂く中で、今日ここまで歩んで参りました。本専攻の皆様からご覧頂きますと、私の道のりは異色に見えるかとは存じますが、皆様着任時より温かく受け入れて下さり心より感謝致しております。

若輩者にて引き続き鋭意精進して参ります、皆様引き続きご指導ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。取り急ぎ短い挨拶にて失礼致します。



着任のご挨拶

リハビリテーション科学コース 助教 谷間 桃子

2019年7月1日付で、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 リハビリテーション科学コース 理学療法学講座に助教として着任しました谷間（旧姓：長井）桃子と申します。本誌をお借りして、みなさまに着任のご挨拶を申し上げます。

私は、2008年に北海道大学医学部保健学科理学療法学専攻を卒業後、神戸大学保健学研究科にて修士課程、京都大学人間健康科学系専攻にて博士課程を修了しました。修士・博士課程では足部・膝関節を中心とする筋骨格系疾患の病態解明に関わる基礎研究を行ってきました。博士課程修了後は、かねてより興味のありました解剖学および発生・遺伝学分野の研鑽を積むべく、京都大学医学部研究科附属先天異常標本解析センター、その後、National Institutes of Health（米国国立衛生研究所）にてポスドク研究員として発生遺伝学に関わる基礎研究に携わってきました。このたび研究留学を終え、本役職に着任させていただき運びとなりました。

理学療法士としての臨床的視点を忘れずに、学生たちとともに研究を推進しながら、教育および本専攻の発展に貢献できるよう尽力していく所存です。教職員として経験が浅くお世話になることもあるかと存じますが、今後とも皆様からのご指導ご鞭撻を賜りますようどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

着任のご挨拶

検査技術コース 助教 しんぼ あきひろ
榛葉 旭恒

令和元年 8 月 1 日付で、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻の助教に着任しました榛葉旭恒と申します。本誌をお借りして、皆様にご挨拶を申し上げます。

私は基礎医学研究への従事を希望して、平成 24 年東京工業大学生命理工学部を卒業後に京都大学医学研究科医科学専攻に進学しました。ウイルス・再生医科学研究所免疫制御分野にて生田宏一教授のご指導の下で、「サイトカインが維持する T リンパ球の恒常性」に関連する研究に取り組んで参りました。博士課程では、ステロイドホルモンとサイトカインの影響により T リンパ球の循環と免疫応答が昼夜で異なることを発見し、博士学位を取得しました。

現在は環境的要因による精神的ストレスが誘導する免疫力の減退あるいは炎症性疾患の発症の機構を明らかにするために、ホルモンと免疫系の関連について研究しております。自身の研究を通して医学の進歩に貢献するとともに、これまでの研究経験を活かして若手人材の教育にも尽力していきたいと考えております。最後になりましたが、今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

着任のご挨拶

総合医療科学コース・若手戦略定員 助教 西中 瑤子

2019 年 8 月 1 日付で、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻・総合医療科学コース・若手戦略定員助教に着任いたしました西中瑤子と申します。本誌をお借りして、皆様にご挨拶申し上げます。

私は、京都大学医学部保健学科検査技術科学専攻一期生として卒業後、卒業研究で研究活動に魅了され、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻修士課程、博士課程へと進学しました。大学院生時代は足立壯一教授のご指導の下、呼吸をしている誰しもが避けては通れない活性酸素種を主な研究対象として、健康維持を目標に、生体内での機能及び神経障害への関与や、新規の活性酸素消去剤の開発研究に従事しました。

健康維持を目標とするには、健康ではない状態＝疾患のことについても、より深く知る必要があると考え、博士課程を修了・学位取得後は、2013 年 4 月から京都大学 iPS 細胞研究所臨床応用部門で研究員として、白血病の発症機序の解明に向けて研究に従事して参りました。

今後は、引き続き研究に邁進しながら研究の魅力を次世代に伝えると共に、実習指導などの教育活動においても、人間健康科学科で学んだ医学系の知識は実際に医学研究を行う際の基礎としても大変重宝するものであった、という自身の経験を学生さんにも共有出来るよう尽力していく所存です。研究者としても教育者としても若輩者ですが、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



着任のご挨拶

検査技術科学コース 助教 金橋 徹

2020年1月1日付で、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 助教に着任いたしました金橋 徹と申します。本誌をお借りして皆様にご挨拶申し上げます。

私は、2014年に本学の医学研究科人間健康科学系専攻修士課程を修了後、本学医学部附属病院検査部に入職し、臨床検査技師として約6年間、臨床経験を積みました。病院では微生物検査・院内感染対策業務に従事し、これまでに認定臨床微生物検査技師・感染制御認定臨床微生物検査技師の資格を取得しました。また、京都府臨床検査技師会の微生物検査研究班にも所属し、精度管理委員などの活動にも従事してきました。2017年からは大学病院での勤務を続けながら、本専攻博士課程に進学し、修士課程時と同じ高桑徹也教授の研究室にて、7 T MRI や位相コントラスト X 線 CT 画像を用いた、ヒト胚子・胎児期初期における器官形態形成に関する解析を行ってきました。現在も継続して当研究活動を進めております。

学ばせて頂いた本専攻で、研究・教育活動ができる機会を頂きまして誠に光栄に存じます。微力ではございますが、これまでの臨床経験を活かして、本学のさらなる発展のために尽力して参りたいと思います。また教員として、研究者として成長できるよう精進していく所存です。今後とも何卒ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



就任のご挨拶

リハビリテーション科学コース 教授 林 悠

2020年4月1日付で、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻リハビリテーション科学コース作業療法学講座臨床認知神経科学分野の教授を拝命致しました。本誌をお借りして、着任のご挨拶を申し上げます。

私は2008年に、ミツバチの社会性行動の研究で有名な久保健雄先生のご指導の元、東京大学の理学系研究科で博士の学位を取得しました。卒業後は「なぜ夢を見るのか?」という素朴な疑問に興味を沸き、マウスの脳発達研究で有名な糸原重美先生のご指導の元、理化学研究所で睡眠の研究を始めました。2013年からは、オレキシンやエンドセリンの発見で知られる柳沢正史先生が機構長として発足した筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構(WPI-IIS)で研究室を運営して参りました。

ぐったり疲れている時に、30分ほど仮眠をとったら凄く元気になった、というご経験はないでしょうか?この時、私たちの体に何が起きたのか、科学的にはほとんど何もわかっていません。睡眠の作用を解明することが、まさに私たちの目標です。特にレム睡眠は、研究をすればするほど謎が深まるばかりです。レム睡眠中はほぼ100%夢を見ていますが、脳の血流などの解析から、起きている時とは全く異質の状態だということが分かってきました。レム睡眠は赤ちゃんに多く、加齢とともに減少します。認知症や発達障害によっても大きく減少します。私たちの独自技術であるレム睡眠操作マウスを様々なライフステージや疾患・障害モデルに適用することで、レム睡眠の意義を解明して参りたいと思います。

また、多くの方々が、一度は不眠に悩まされたことがあるのではないのでしょうか?質の良い睡眠の誘導方法の開発も私たちの目標です。欧米では近年、慢性不眠の治療の第一選択は、睡眠薬ではなく、認知行動療法です。入眠困難を患った場合に、認知行動療法では、日中どんなにつらくても昼寝を我慢し、夜も、どうしても眠気に耐えられなく

なるまでは、ベッドに横たわりません。これによって高まった睡眠圧で、一気に深い睡眠を誘導します。こうした治療法は、様々な精神疾患において、不眠のみならず、精神疾患の中核症状そのものの改善ももたらすことが報告され、作業療法士の活躍が期待されています。しかしながら、まだ科学的なエビデンスに十分基づいて行われているとは言えません。また、そもそも睡眠を実行する脳部位の機能が低下した場合に、その効果に限界があります（この点は、睡眠薬でも同じです）。今後、科学的エビデンスに裏付けされた最適な睡眠マネジメント法を、認知行動学・医薬学・食品学・工学を駆使して確立し、健康寿命の延伸に貢献できるよう取り組んで参る所存です。是非、多様なアプローチから医学・健康科学の分野で世界をけん引なさっている本専攻の先生方にご指導頂き、また学生の皆様とコラボレーションをさせて頂きながら、睡眠研究を進められたらと思います。どうかご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



着任のご挨拶

看護科学コース 准教授 塩見 美抄

令和2年4月1日付で、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻地域看護学講座予防看護学の准教授に着任しました塩見美抄と申します。本誌をお借りして、皆様に着任のご挨拶申し上げます。

私は幼い頃から看護師を志し、高校生の頃に看護を学問として大学で学ぶ道があることや、修士号・博士号を取ってその道を究められることを知り、千葉大学看護学部に進学しました。そこで出会った保健師のダイナミックな活動に魅了され、保健師として実践を経験しました。その後神戸大学大学院博士前期・後期課程に進学・修了し、兵庫県での助手・講師・准教授経験を経て今に至っております。私が大学に進学した当時から考えると、看護系大学や大学院数は激増し、新人保健師の大半が大卒者となり、看護界は大きく進化してきました。とは言え、看護学、特に私の専門としている地域看護学が大学数のように劇的な学問的発展をしてきたかという点、自戒の念も込めて、まだまだなのではないかと思っております。発展の余地のある可能性豊かな学問、それが看護学であり、その醍醐味をここ京都大学で存分に味わい、その発展に寄与し、学生に教授していく所存です。

コロナ渦でこちらに赴任してまだ数か月、京都大学の魅力を体感し尽くせてはいないと思いますが、それでも素晴らしい先生方や豊かに思考できる学生たち、学問の発展を醸成する環境に、日々ワクワクしております。人間健康科学系専攻の一員として医学との繋がりが強い本学の特性を生かし、看護学の発展と実践の向上につながる研究を意欲的に進めてまいります。どうぞよろしく願いいたします。

着任ご挨拶

看護科学コース 講師 細川 陸也

2020年4月より、人間健康科学系専攻地域看護学講座予防看護学分野に着任いたしました細川陸也と申します。私は、看護師・保健師資格を取得後、大阪府和泉保健所、大阪市西成区保健福祉センターの保健師として勤務し、母子保健、高齢者保健福祉、感染症対策、精神保健福祉、難病保健などの業務を経験してきました。その後、予防看護学分野の桂敏樹先生のご指導のもと、修士号・博士号を取得し、今年3月までの6年間、名古屋市立大学大学院看護学研究科地域保健看護学領域の教員として、公衆衛生看護学および在宅看護学を担当してきました。

主な研究テーマは、児の社会的スキルの発達です。私は、大阪市西成区での保健師活動を通じて、世代間の貧困の負の連鎖の現状を目の当たりにしました。生活保護世帯をはじめとした貧困世帯の児は、学校不適応を起こしやすく、

将来貧困に陥るリスクが高い傾向にあります。私は、社会経済的に不利な家庭環境にある児の社会不適応を防止したいと思い、社会的スキルの発達に関する研究を行っています。今後も本研究活動を継続・発展させ、社会不適応の未然防止に向けた育児支援システムの構築に寄与していきたいと考えています。

私は、教育・研究・社会活動等を通じて、少しでも本専攻に貢献していきたいと思っております。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

就任のご挨拶

看護科学コース 助教 平 和也

令和2年4月1日付で、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻予防看護分野の助教に着任致しました平和也と申します。本誌をお借りして、皆様に着任のご挨拶を申し上げます。

私は、奈良県の保健師として健康寿命の延伸に向けた健康づくり施策や計画の策定や保健所での感染症対策に従事してまいりました。その後、滋賀医科大学医学部看護学科公衆衛生看護学講座の助教として教育を行いながら、大阪大学大学院医学系研究科総合ヘルスプロモーション科学講座の神出計教授のご指導のもと、博士後期課程のテーマとして、行政の政策目標としての健康寿命に関する研究やWeb上のログデータを用いた健康情報ニーズに関する研究などを行ってきております。京都大学では、オープンデータ化が進む社会情勢の中、地域社会におけるログデータを用いた新たな健康づくりの在り方を提言するような研究に取り組み、本学における研究の発展に少しでも協力できるよう、非力ながら本専攻での教育や研究活動に尽力していく所存です。今後とも、皆様からのご指導ご鞭撻を何卒宜しくお願い申し上げます。

着任のご挨拶

看護科学コース 助教 近田 藍

2020年4月1日付けで、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻基礎看護学講座生活環境看護学分野の助教として着任いたしました近田藍と申します。本誌をお借りして皆さまに着任のご挨拶を申し上げます。

私は、2009年に京都大学医学部保健学科看護学専攻を卒業後、京都大学医学部附属病院の脳神経外科病棟等で約5年間の臨床経験を積みました。2015年4月より京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻修士課程に入学後、人間健康科学系専攻任和子教授および竹之内沙弥香准教授をはじめ、多くの先生方のご指導を賜り、修士課程・博士後期課程一貫して、原発性悪性脳腫瘍患者に対する意思決定支援に関する研究に、量的・質的手法、両面のアプローチを用いて取り組んで参りました。

この度、母校である京都大学で、教員として研究・教育に携わらせていただく貴重な機会をいただきましたことを大変嬉しく思っております。今後も自己研鑽を積み重ね、研究者、教育者、そして看護師として京都大学の発展に少しでも寄与できますよう、精一杯努力していく所存でございます。

最後になりましたが、今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

第 32 回健康科学市民公開講座報告

学術委員会委員長 生活習慣病看護学（ビッグデータ医科学） 教授 奥野 恭史

令和元年 11 月 2 日（土）に第 32 回健康科学市民公開講座を開催いたしました。今回取り上げたテーマは「医療・芸術・脳科学融合プロジェクト ～現代アートと人間健康科学とのクロストーク」です。医療と現代アートのコラボレーションをテーマに、現代のメディアアートをけん引する京都市立芸術大学の 4 名の先生方にお越しいただき、最先端のご活動および当専攻との共同研究についてご紹介いただきました。

当専攻の教授 2 名の発表とあわせ、計 3 つの講演、2 つのシンポジウム（総合討議を含む）を行い、ご参加の皆さんに人間健康科学を異分野融合の新しい視点で実感いただくことを目的として企画いたしました。

講演 1：想像の鏡の彼岸へ ～アート×人間+健康+科学

京都市立芸術大学美術学部美術科（構想設計専攻）の高橋 悟教授から、生存の技法（私たちが生きてゆく為の創造的な技術）」という視点から身体・知覚・言語の関係を再配置する考えが紹介され、医療・生命・環境・制度を包括する芸術の研究を国内外の研究機関、美術館と連携し展開されている活動が紹介されました。認知症患者や発達障害患者における空間のとらえ方や知覚表現に関するご研究では、患者と、患者に向き合う相手との間にある空間が認識され、コミュニケーションが確立すると人の“ふるまい”が生まれることが見出されました。動画もまじえてわかりやすくお話いただきました。



講演 2：時空意識への挑戦

京都市立芸術大学美術学部美術科（彫刻専攻）の松井 紫朗教授は、さまざまな素材を用いた立体造形に自然科学の原理を応用することにより、人の知覚や空間認識がどのような影響を受けるかについて研究時のエピソードとともにご紹介くださいました。JAXA（宇宙航空研究開発機構）との共同実験においては宇宙での庭作りや、容器に詰めた宇宙空間の持ち帰りを試みられ、実際に宇宙空間の持ち帰りに使用されたカプセル型の容器が会場内に回覧されました。ユーモアと理知を備えた造形や個々のエピソードには先生の独自性が感じられ、興味深く講演を拝聴いたしました。



講演 3：そこに寝床は配置されるのか：文化史的・生理学的意味

当専攻の若村智子教授は、人間が持っている体内時計に夜間の人工照明が与える影響や、患者・医療従事者双方の力を引き出すための体内時計を取り巻く環境について研究されています。今回は実際の病院の写真や見取り図、ベッドをモチーフにした名画をもとに寝床の位置について考察されました。壁との設置関係や距離など日常的环境でありながら普段は気がつかない視点とそれらの人への影響について芸術、文化、生理学、宗教学的解釈をまじえ、多角的かつやさしくご解説いただきました。



シンポジウムパート 1：脳科学とアートの融合に向けて

当専攻の精山明敏教授は生体機能の可視化と定量化を主テーマに、光計測技術・磁気共鳴技術を発展させ、その医学・生命科学的应用を目指して研究が続けられています。今回は 2010 年から 2015 年までの 5.5 年間に行われた、京都大学工学研究科と医学研究科の融合大学院教育プログラム「安寧の都市ユニット」で開拓されてきた学際領域「感性都市工学」の成果を中心に、日常生活の中の脳科学とアートの関係についてお話いただきました。

シンポジウムパート 1：コミュニティをデザインする

京都市立芸術大学美術学部美術科（彫刻専攻）の小山田 徹教授は、大学在学中にパフォーマンスグループを結成、その後、共有空間の獲得や社会の中に人々が協働してモノやコトを共有する場や時間を作り出すことを美術の分野からアプローチされていらっしゃいます。今回は、ご活動のうち、コミュニティセンター、コミュニティカフェの立ち上げと成果について、また、奈良で開催された焚き火場とトークのシリーズについて画像をもとにお話いただきました。出会いの場の設置により、知らなかった人同士に話しあいのきっかけが生まれ、コミュニティがデザインされた実績が具体例をもって紹介されました。

シンポジウムパート 1：「てんかんをめぐるアート展」におけるコミュニケーションの創生

京都市立芸術大学博士課程の山田 毅先生は京都に移住された後、会話や人とのつながりをテーマとして作品制作や場作りに関わられており、フリーペーパーの専門店や美術室などを開設され活動の幅を広げていらっしゃいます。2017年には本学医学研究科と協働、本学総合博物館で開催した「てんかんをめぐるアート展 2017」の事務局運営や会場構成を担当されました。てんかんを持つ患者の作品や支援する人々との関わりによって生まれた作品など、当時の画像や図録をもとにご紹介いただきました。患者の作品を家族が出展するような人と人のつながりについてもご説明くださいました。

シンポジウムパート 2：総合討議

最後に、15分ほどの時間で質問事項について講師の先生にお答えいただく質疑応答を行いました。多くの質問が寄せられ、時間内にまとめるのに苦労しましたが、講師の先生方には簡潔かつ的確にご回答いただけました。

今回は45名の方にご参加いただき、アンケートは37名の方から回収できました。「今回のテーマはよかったですか？」の問いについて、「大変よかった」14、「よかった」21、「ふつう」1、「よくなかった」0、「無回答」1と大変好評な評価をいただきました。「医療と芸術の関係性を知ることができました」、「望んでいたテーマがこれだったと思いました。わくわくしながら聞いていました」、「アート・芸術とのむすびつきをもっと色々な分野でふやすべきと考える」「現代美術と身体感覚を考える上で、新しい知見を得ることができました」などのご意見をいただき、ご参加いただきました方々の理解につながる場となりました。

人間健康科学系専攻から博士が6名誕生しました

博士授与者と論文題目

越 智 亮

論文題目：Effect of balance exercise in combination with whole-body vibration on muscle activity of the stepping limb during a forward fall in older women: A randomized controlled pilot study
(バランスエクササイズと組み合わせた全身振動刺激療法が高齢女性の前方転倒回避ステップ中の遊脚筋活動に与える効果：無作為化比較対象試験のパイロット研究)

金 橋 徹

論文題目：Relationship Between Physiological Umbilical Herniation and Liver Morphogenesis During the Human Embryonic Period: A Morphological and Morphometric Study
(ヒト胚子期にみられる生理的臍帯ヘルニアの発生要因について - 肝形成との関連に基づいた形態及び形態計測学的検討)

西田 誠 マルシオ

論文題目：Two-Year Weight Loss but Not Body Mass Index Predicts Mortality and Disability in an Older Japanese Community-Dwelling Population
(体格指数ではなく2年間の体重減少によって地域在住高齢者の死亡率と介護認定率が予測される)

梅 原 潤

論文題目：Scapular kinematic alterations during arm elevation with decrease in pectoralis minor stiffness after stretching in healthy individuals
(ストレッチングによる小胸筋の柔軟性向上に伴う肩甲骨運動の変化)

佐々木 誠

論文題目：Variation in accumulated dose of volumetric-modulated arc therapy for pancreatic cancer due to different beam starting phases
(膵臓癌に対する強度変調回転放射線治療における異なる照射開始位相に起因した累積線量の変動)

Zeidan Hala

論文題目：Detailed analysis of the transverse arch of hallux valgus feet with and without pain using weight-bearing ultrasound imaging and precise force sensors.
(荷重時の超音波画像と力センサーによる痛みの有無による外反母趾足の横アーチの詳細分析)



博士号を取得して

越智 亮

寄稿の機会を頂きありがとうございます。私は、2009年3月に名古屋市立大学大学院修士課程を修了した後、2012年4月から京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻博士後期課程に入学しました。また、私は愛知県にあります理学療法士養成校の教員として勤務しながら大学院に在籍しておりました。博士後期課程在学中は、愛知で仕事をしながら週に1、2日の頻度で京都での研究活動を実施しておりました。

私が本学大学院への入学を志願したきっかけは、理学療法士の学会で当時の人間健康科学系専攻の大学院生の方の研究発表を拝聴したことでした。そのため、諸先生方や院生の同僚や後輩の研究力が高いことは既に分かっていましたが、入学してからは多くの研究テーマが臨床にすぐに活かせるものや臨床に深くかかわるものであったことに驚嘆しました。研究計画を検討する集まりの際に、私の研究に多くの意見を頂けたことや、研究に関する議論をできたことは私の貴重な財産になっています。そして、博士後期課程での研究活動以外の勉強会や症例検討会への参加は、私の理学療法士としての臨床力も大きく成長させてくれたと思っています。

私は博士号取得までに多くの時間を要しましたが、最後までご指導くださいました市橋則明教授をはじめ、諸先生方、研究室の院生の皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。現在も大学教員として学生指導の傍ら高齢者の転倒回避動作に関する研究に取り組んでいます。今後も老年期の理学療法や予防リハビリテーションの発展に貢献できるように研究に精進してまいります。



大学院生活を振り返って

梅原 潤

私は、リハビリテーション現場で用いられているストレッチングの科学的根拠を示すことを目的とし、筋の柔軟性と肩関節運動の関係性を明らかにする研究を行い、2020年3月に博士の学位を取得しました。学部を卒業後、2014年4月に本学大学院医学研究科人間健康科学系専攻の修士課程に入学し、課程修了後、1年間の研究員と理学療法士としての経験を積んだのちに、同専攻の博士後期課程に戻りました。大学院生活を回顧し、いつも丁寧に指導して下さった市橋教授をはじめとする先生方、親身に相談に乗って下さった先輩方、どんな時でも応援してくれた家族には心より感謝しております。特に、早朝から深夜まで実験を手伝ってもらい、気の済むまで議論をしてくれた同期には格別の思いがあります。また、博士課程中にはフランスのUniversity of Nantesに留学する機会があり、国際レベルで活躍する研究者に接することもできました。大学院生としての研究生生活を通して、物事を深く考え時には俯瞰してみる重要性、新たな知識を創造する喜び、失敗しても諦めず継続する大切さ、そして研究成果を世界へ発信していく必要性を学びました。

現在は、日本学術振興会特別研究員として、脳情報通信融合研究センターで博士研究員をしています。研究テーマは、次世代筋骨格モデルを用いたモデルベーストリハビリテーションの実現であり、コンピューターシミュレーションを使用して、患者さんに最適なリハビリテーション介入法を予測した上で、その予測に基づき実際の治療を行うという新たなリハビリテーション体系の構築に着手しています。博士号を取得し、研究者として遂にスタートラインに立つことができたと感じています。これからも失敗を恐れず、自分らしさをもって、新しいことに積極的に挑戦していきたいと思っています。

博士号を取得して

佐々木 誠



この度は、このような機会をいただき、ありがとうございます。

私は平成 21 年より京都大学医学部附属病院で診療放射線技師として勤務しております。大学病院での経験を積むにしたがい京都大学で博士号を取得したいと強く思うようになりました。縁あって、平成 29 年に社会人大学院生として博士後期課程に入学し、放射線を用いた癌治療において、呼吸性移動を伴う放射線治療計画の開発という研究テーマに取り組みました。

社会人と学生の両立を行う上で苦勞したことは、研究に充てる時間の確保でした。また、限られた時間の中で執筆した論文が思うように受理されず自信喪失することもありましたが、杉本直三教授、中村光宏准教授の熱心なご指導を賜り、令和 2 年 3 月に博士号（人間健康科学）を取得することができました。初めて英語論文が受理された日に、中村先生と握手したことは今でも印象深く記憶に刻まれています。

今後は、大学病院で勤務する診療放射線技師として、大学院で学んだ知識や経験を職場に還元し、学術活動を活性化させたいと考えております。

最後になりますが、ご指導いただいた先生方、お世話になった研究室の皆様、社会人と学生の両立を応援してくれた家族に、心から御礼申し上げます。



博士号を取得して

ZEIDAN HALA

令和 2 年度に博士号を取得したりハビリテーション科学コースのザイダーン・ハラです。この度はこのような機会を頂きありがとうございます。

京都大学では様々な出会いをしたり、計測会や共同研究、または海外研究、様々な知識をもらったり、様々な経験をしました。そして将来のイメージができました。青山朋樹先生と坪山直生先生をはじめに、LIMS のメンターと研究室の皆様に心から感謝しています。

博士後期課程修了後の現在は、好きな関西で研究と療育指導をしています。障がいがある子どもに、新しい福祉の形で IT を使って療育をする会社に勤めています。

お世話になった青山先生が指導していただいた通りに、その子どもたちにも challenge の大事さを伝えて、自分の足で社会に出るように目指しています。

人間健康科学系専攻・人間健康科学科 令和2年度入学試験結果及び令和元年度修了・卒業者数

令和2年度 医学部人間健康科学科入学試験結果

コース・日程		募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
先端看護科学コース	特色	20	43	19	19
先端リハビリテーション科学コース (理学療法学講座)	特色	5	15	4	4
先端リハビリテーション科学コース (作業療法学講座)	特色	5	21	5	5
一 括	一般	70	217	78	78
合 計		100	296	106	106

令和2年度 医学研究科人間健康科学系専攻（修士課程）

入学試験結果

コース	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
看護科学コース { 専門看護師課程（内数） }	28	38[11] {9[8]}	23[6] {5[4]}	20[6] {5[4]}
【高度実践助産学系（内数）】	【10】	【16[0]】	【10[0]】	【9[0]】
検査技術科学コース	13	30[1]	27[1]	26[1]
リハビリテーション科学コース (理学療法学講座)	4	18[1]	14[1]	14[1]
リハビリテーション科学コース (作業療法学講座)	4	10[0]	6[0]	6[0]
合 計	49	96[13]	70[8]	66[8]

[]の数は、社会人特別選抜（内数）

令和2年度 医学研究科人間健康科学系専攻（博士後期課程）

入学試験結果

コース	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
看護科学コース	15	13	9	9
検査技術科学コース		5	4	4
リハビリテーション科学コース (理学療法学講座)		6	5	5
リハビリテーション科学コース (作業療法学講座)		5	5	5
合 計	15	29	23	23

令和元年度 医学部人間健康科学科卒業生数

専攻	卒業生数
看護学専攻	54
検査技術科学専攻	44
理学療法学専攻	14
作業療法学専攻	18
合 計	130

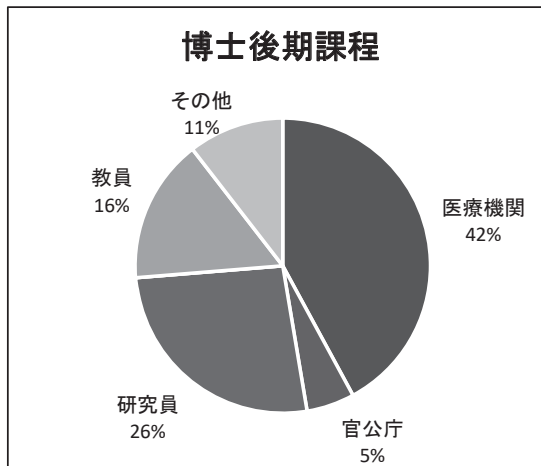
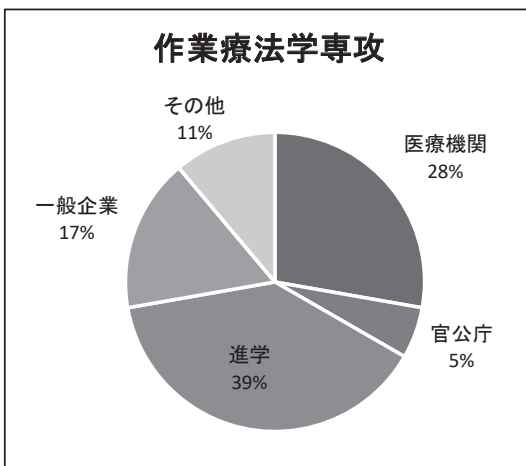
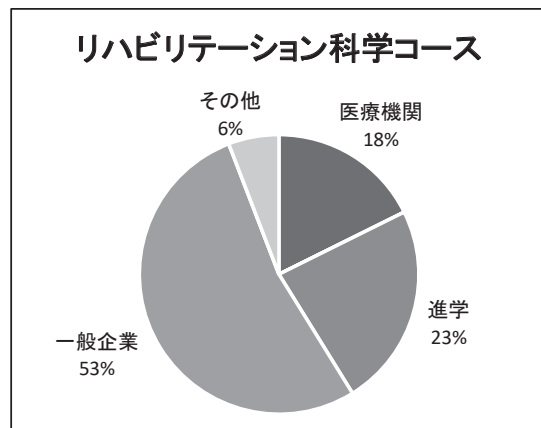
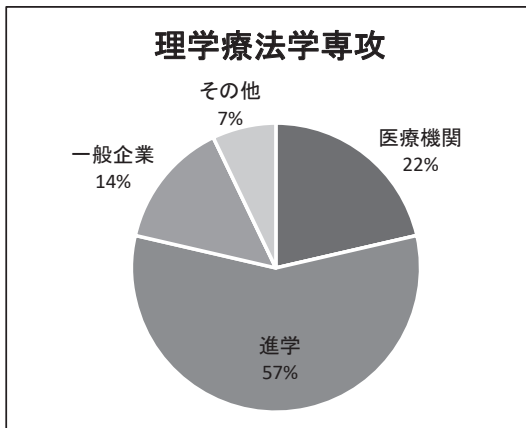
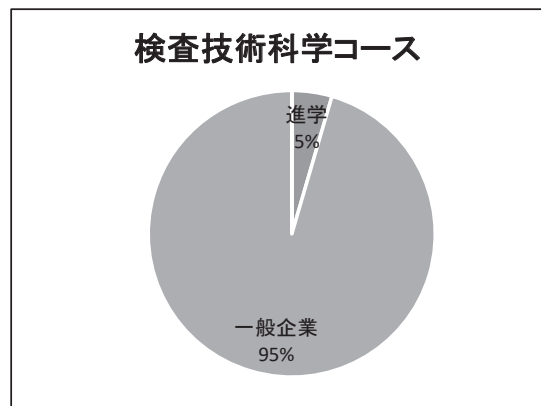
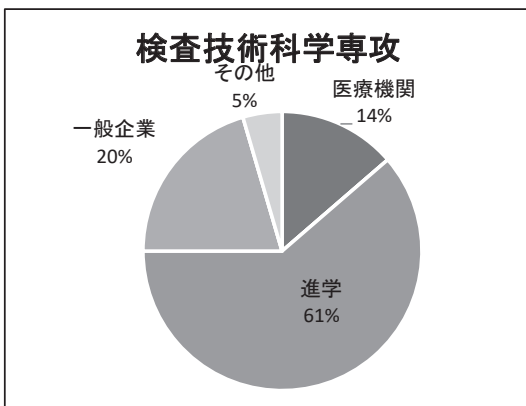
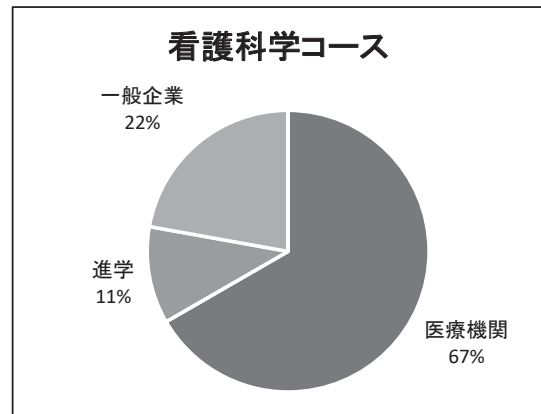
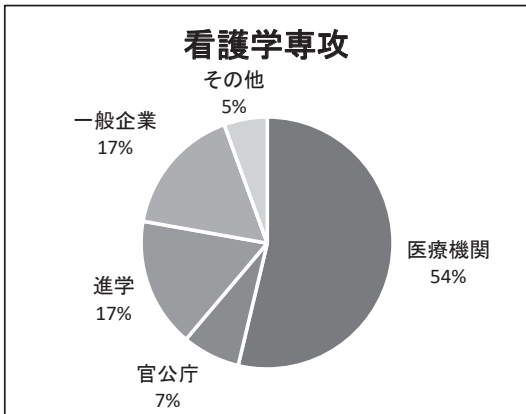
令和元年度 医学研究科人間健康科学系専攻（修士課程）修了者数

コース	修了者数
看護科学コース 【高度実践助産学系（内数）】	18 【9】
検査技術科学コース	22
リハビリテーション科学コース （理学療法学講座）	9
リハビリテーション科学コース （作業療法学講座）	8
合 計	57

令和元年度 医学研究科人間健康科学系専攻（博士後期課程）修了者数

コース	修了者数
看護科学コース	0
検査技術科学コース	1
リハビリテーション科学コース （理学療法学講座）	3
リハビリテーション科学コース （作業療法学講座）	0
合 計	4

令和元年度（2020年3月） 卒業・修了生の進路調査結果



人 事 異 動

発令年月日	職 名	氏 名	所 属	異 動 事 由
令和				
1.6.1	准教授	西山 知佳	看護科学コース	昇任
1.7.1	特定講師	河本 大知	検査技術科学コース	採用
1.7.1	助教	谷間 桃子	リハビリテーション科学コース	採用
1.8.1	助教	榛葉 旭恒	検査技術科学コース	採用
1.8.1	助教	西中 瑤子	検査技術科学コース	採用
1.9.30	特定准教授	魚野 翔太	発達障害支援医学講座(寄附)	任期満了
1.10.1	准教授	竹之内 沙弥香	看護科学コース	採用
1.10.1	特定准教授	荒木 望嗣	看護科学コース	採用
1.10.1	特定助教	岩田 浩明	看護科学コース	採用
1.10.1	特定講師	義村 さや香	リハビリテーション科学コース	採用
1.11.30	特定助教	趙 朔	リハビリテーション科学コース	辞職
1.12.31	特定教授	西垣 昌和	看護科学コース	辞職
2.1.1	助教	金橋 徹	検査技術科学コース	配置換
2.2.29	准教授	新福 洋子	看護科学コース	辞職
2.3.1	特定講師	池之上 辰義	検査技術科学コース	昇任
2.3.31	助教	小川 真寛	リハビリテーション科学コース	辞職
2.3.31	講師	大倉 美佳	看護科学コース	任期満了
2.3.31	教授	桂 敏樹	看護科学コース	定年退職
2.3.31	教授	三谷 章	リハビリテーション科学コース	定年退職
2.3.31	教授	天谷 真奈美	看護科学コース	辞職
2.3.31	特定助教	寺山 慧	看護科学コース	辞職
2.4.1	助教	近田 藍	看護科学コース	採用
2.4.1	准教授	塩見 美抄	看護科学コース	採用
2.4.1	講師	細川 陸也	看護科学コース	採用
2.4.1	助教	平 和也	看護科学コース	採用
2.4.1	教授	林 悠	リハビリテーション科学コース	採用
2.4.1	講師	近藤 祥子	看護科学コース	昇任
2.4.1	特定准教授	玉田 嘉紀	看護科学コース	採用
2.4.1	特定助教	内野 詠一郎	看護科学コース	採用
2.4.1	特定研究員	厨 祐喜	看護科学コース	採用
2.4.1	特定研究員	長谷川 亜樹	看護科学コース	採用
2.4.30	特定助教	入江 啓輔	リハビリテーション科学コース	辞職
2.5.1	助教	入江 啓輔	リハビリテーション科学コース	採用

日 誌 (H 31.4 ~ R2.3)

4.2-4.4	新入生全学機構ガイダンス「救命救急講習」	8.8	オープンキャンパス
4.3	修士課程 1 回生ガイダンス	8.13-14	夏季一斉休業
4.4	博士後期課程 1 回生ガイダンス	8.23	2 年次学士入学試験
	病院協議会	8.27	大学院修士課程入学試験
4.5	学部入学式		
	学部新入生ガイダンス	9.5	病院協議会
	大学院入学式		教務・教育委員会
4.10	執行部会議	9.11	執行部会議
4.11	医学研究科将来計画検討委員会	9.12	臨時教授会
	医学研究科会議・医学教授会		医学研究科将来計画検討委員会
	教務・教育委員会		医学研究科会議・医学部教授会・医学教授会
4.15	拡大執行部会議	9.13	2 年次学士入学試験合格発表
4.18	研究紹介 (杉浦ホール)		大学院修士課程入学試験合格発表
	教員会議	9.17	拡大執行部会議
	教授会・学系会議	9.19	研究紹介 (講演) (第 9 講義室)
4.24	執行部会議		教員会議
4.25	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議		教授会・学系会議
		9.20	遺骨返還式
5.7	病院協議会	9.26	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議
5.9	医学研究科将来計画検討委員会		
	医学研究科会議・医学教授会	10.2	執行部会議
	教務・教育委員会	10.3	病院協議会
5.10	執行部会議		教務・教育委員会
	第 56 回国立大学臨床検査技師教育協議会	10.9	執行部会議
5.11	大学院説明会 [検査技術科学コース]	10.10	医学研究科将来計画検討委員会
	大学院説明会 [リハビリテーション科学コース (作業)]		医学研究科会議・医学教授会
5.13	拡大執行部会議	10.15	拡大執行部会議
5.16	医学 URA による科研費等の競争的資金申請支 援に関する説明会 (杉浦ホール)	10.16	解剖体祭
	教員会議	10.17	教員会議
	教授会・学系会議		教授会・学系会議
5.18	大学院説明会 [リハビリテーション科学コース (理学)]	10.23	執行部会議
5.20	執行部会議	10.24	臨時教授会
5.23	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議		医学研究科関係学系長会議・専攻長会議
		11.2	第 14 回京都大学ホームカミングデー 京大病院オープンホスピタル 2019 第 32 回 (2019 年) 健康科学市民公開講座
6.2	第 12 回国立大学保健医療学系代表者会議 看護学分会	11.6	大学院博士後期課程入学試験
6.3	第 14 回国立大学保健医療学系代表者協議会	11.7	教務・教育委員会
6.6	病院協議会		病院協議会
	教務・教育委員会		過半数代表者選挙投票日
6.12	執行部会議	11.13	執行部会議
6.13	医学研究科将来計画検討委員会	11.14	医学研究科将来計画検討委員会
	医学研究科会議・医学教授会		医学研究科会議・医学教授会
6.15	大学院説明会 [看護科学コース]	11.14-15	特色入試第 2 次選考
6.17	拡大執行部会議	11.18	拡大執行部会議
6.18	創立記念日	11.21	研究紹介 (第 9 講義室)
6.20	研究紹介 (第 9 講義室)		教員会議
	教員会議		教授会・学系会議
	教授会・学系会議	11.21-24	11 月祭
6.26	執行部会議	11.26	執行部会議
6.27	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議	11.28	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議
			医学研究科会議
7.4	病院協議会	11.29	博士後期課程入試合格発表
	教務・教育委員会		
7.10	執行部会議	12.5	病院協議会
7.11	医学研究科将来計画検討委員会		教務・教育委員会
	医学研究科会議・医学教授会	12.11	執行部会議
7.12	令和元年度全国国立大学法人助産師教育専任 教員会議	12.12	医学研究科将来計画検討委員会
	教員会議		医学研究科会議・医学教授会
7.16	拡大執行部会議	12.16	拡大執行部会議
	医系懇談会	12.19	教員会議
7.18	教員会議		教授会・学系会議
	教授会・学系会議	12.25	執行部会議
7.24	執行部会議	12.26	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議
7.25	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議	12.28	京都大学医学教育ワークショップ (KUROME)

日 誌

1.6	新年挨拶会	3.5	病院協議会
1.7	病院協議会		教務・教育委員会
1.8	執行部会議	3.9	教授会
1.9	医学研究科将来計画検討委員会		医学部教授会
	医学研究科会議・医学部教授会・医学教授会	3.10	学部入試合格発表
	教務・教育委員会	3.11	執行部会議
1.14	拡大執行部会議	3.12	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議
1.16	研究紹介（第9講義室）		医学研究科将来計画検討委員会
	教員会議		医学研究科会議・医学教授会
	教授会・学系会議	3.16	拡大執行部会議
1.18	大学入試センター試験（～19日）	3.19	研究紹介（第9講義室）
1.22	執行部会議		教員会議
1.23	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議		教授会・学系会議
	医学研究科会議・医学教授会	3.23	修士・博士学位記授与
2.6	病院協議会	3.24	学部学位記授与
	教務・教育委員会	3.25	執行部会議
2.12	執行部会議	3.26	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議
	特色入試合格発表		医学教授会
2.13	医学研究科将来計画検討委員会		
	医学研究科会議・医学教授会		
2.14	五〇会総会		
2.17	拡大執行部会議		
2.20	教員会議		
	教授会・学系会議		
2.25	学部入試（～26日）		
2.27	執行部会議		
2.28	医学研究科関係学系長会議・専攻長会議		
	医学研究科会議・医学教授会		

あとがき

新型コロナウイルス感染症が京都大学にも大きな影響を及ぼす中、本年も無事に広報をお届けする事ができました。本誌では、本学科を取り巻く組織改革や人事異動を皆様に正確にお伝えするとともに、学位取得者の声や開催行事などもご紹介したいと思っております。特に近年は、学士編入制度を新しく導入した事に加え、オープンキャンパスを毎年開催するなど、本学科の授業や研究を周知するためのプロモーション活動を積極的に行っております。今後ともお力添えの程、どうぞよろしくお願い致します。

（奥野 恭史）



<http://www.med.kyoto-u.ac.jp/>